



## 申14号 2020年度賃金引き上げ等に関する 申し入れ第2回団体交渉を行う！③

### 社会的な突出感について

- (組合) 有価証券報告を基に平均年収を比較すると、JR 東日本は 715 万円で鉄道業の中で 11 位。10 位の JR 東海 735 万円、1 位の相鉄 900 万円と比較して、満額回答でも突出しない。
- (会社) 首都圏の一部上場企業で公共性が高い。他企業、投資家、株主、世間一般から見られる事も考慮している。突出感の考え方だけが突出するのも良くないと考えている。
- (組合) 有効求人倍率が高く、JR 東日本グループを担う社員確保が厳しい。年収増は若者が就職する際の判断材料になる。
- (会社) 学生が選ぶ基準に賃金もあるが、福利厚生、今後の可能性など様々な判断基準がある。

**これからの発展に欠かせない人材確保の観点からもベースアップは必要だ！**

### 生産性向上に対する社員の貢献への成果配分について

- (組合) 社員数が減少する中で労働力を高めてきた。会社施策も、提案・説明、団体交渉を含めこの 1 年で 60 回を超える議論を積み重ねてきた。施策に向き合い議論を積み重ねてきたからこそ、厳しい社会環境や様々な施策に対して対応出来ている。
- (会社) 施策は時間軸とスピード感を持って行う。生産性向上を踏まえて真摯に議論してきた。激動の情勢の中で変えなければいけないもの、現状維持などをしっかり判断してやりたい。
- (組合) 社員数が減少している中で収益を確保できているのは、一人ひとりの働き度が上がっている証拠である。労働強化されている中で、今後も業務が高度化・多能化し労働密度が上がる。
- (会社) 世間状況、足元の状況、施策での生産性の向上などを総合的に判断して賃金改善を行っていく。最終的には総合的に判断したい。

**安全と働きがい確保しつつ、現状に向き合う組合員の労働力の価値に対して正当に投資するべきだ！**

### 各部会からの主張

- 営業** (組合) 近距離収入が落ち込む厳しい中で、スタンプラリーは好調で台紙が不足するようなことも発生している。職場間で融通し合いながら収入確保に取り組んでいる。支社を超えて職場間の交流からイベント等を企画、発想して集客に努めている。
- (会社) 営業の地道な努力は認識している。支社を超えた取り組みにも知恵を出していただいたことに対して感謝している。
- (組合) 新型コロナウイルスの影響により払戻しが発生し、みどりの窓口の徒列対応に苦慮している。職場が一致協力して難局を乗り越え、収入につなげようと「春の装飾」「オリパラの準備」「ダイヤ改正」「定期多売」の準備も同時に行っている。
- (会社) 新型コロナウイルスに関する払い戻しでは、通常徒列のできない時間にも対応していることは認識している。引き続き、会社として必要なバックアップをしていきたい。

**現場の苦勞に応えるべきだ！ ④へ続く**